

2019年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
国立大学法人群馬大学

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人群馬大学	特別支援学校	知的障害	群馬大学教育学部附属特別支援学校 (ぐんまだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう)

2. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

実施時期	実施内容	評価事項
令和元年 5 月	○第 1 回検討会 ・ 2 年次計画の方針について確認 ・ 実践内容について協議	・ 今年度の計画の方向性について、学校研究との関連や、取組の重点について共通理解を図ることができた。
令和元年 6 月	○授業研究会① ・ 校内における授業公開と授業研究会の実施 (新潟大学教育学部 准教授 足立幸子先生より指導・助言) 中学部 音楽科「思いをのせて 夏のミニコンサート」	・ 授業研究会において、読書活動や図書の活用を学習活動に組み込むことによる良さや効果に加え、メディアリテラシーという観点から、読書活動並びに図書を学習活動に取り入れる際の留意点及び配慮事項等、次回の授業実践に生かす内容を確認した。
令和元年 8 月	○夏季研修会 ・ 「特別支援教育における図書館の利活用について」(専修大学 文学部 野口武吾教授による講話) 実施 ○第 2 回検討会	・ 本校における図書館の利活用の状況や実践について、成果として評価できる点や、今後重点をおいて取り組むべき点について

	授業研究会①や本校の現時点での取組内容を受けた中間評価	て明らかにすることができた。
令和元年 9 月	○特殊教育学会（広島）参加 （特別支援教育における読書活動やマルチメディア図書の活用について、シンポジウムやポスター発表に参加・意見交換）	・マルチメディア図書の有用性や授業における活用方法について見出すことができた。
令和元年 10 月	○児童生徒の読んだ本の種類や冊数等、実態を把握するための「読書カード」の作成、運用開始	・カードの使用方法や活用方法について全教員に周知、共有し、運用を始めることができた。
令和元年 11 月	○公開研究会において、対外的に授業の公開 小学部 算数科「くらべて みつけよう」 中学部 美術科「あったらいいなこんなお店」 ○鳥取県立図書館及び鳥取大学附属特別支援学校視察 ・具体的な実践や取組についての意見交換 ・施設設備の視察	・授業後の意見交換等から、読書活動や図書館の利活用を、単元のどこに位置付けるか、1 単位時間の授業における有効な取り入れ方について考察した。 ・視察を通して、本校における実践の価値や意義を客観的に振り返り、今後の実践の重点を確かめることができた。
令和元年 12 月	○県内外の学校へのアンケート調査の実施 県内の特別支援学校及び県外の国立大学附属特別支援学校並びに附属小・中学校に対し、図書館の利活用状況や読書活動の取組についてのアンケート調査用紙の送付 ○アンケートの集計と考察 ○第 3 回検討会 ・これまでの実践内容について共有 ・視察の報告 ・今後の実践内容について協議 （新潟大学教育学部 准教授 足立幸子先生より指導・助言）	・特別支援学校における図書館設置状況の一端や読書活動等の現状等、アンケート調査結果の考察から、本実践研究の価値や意義を確かめた。 ・検討会における指導・助言や協議から、これまでの実践の成果を共有できた。また、教材化と評価について、今後の取組内容及び方向性を確かめることができた。
令和 2 年 1 月	○授業研究会② ・校内研究授業及び授業研究会の実施 小学部 生活単元学習 「しらべて みつけて つくってみよう」 ○第 4 回検討会	・研究会において、児童の実態を踏まえた読書活動と教材の準備について協議し、読書活動を取り入れ、教材を工夫した

	<ul style="list-style-type: none"> ・事業 2 年次の総括的評価 ・3 年次計画に関する協議 (新潟大学教育学部 准教授 足立幸子先生より指導・助言) 	<p>ことが、児童の単元の目標の達成のために有効であることを確かめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度計画について、方向性や明らかにすることなど、具体的な内容について、計画の作成や修正を行うことができた。
令和 2 年 2 月	○東京都立鹿本学園、東京学芸大学附属特別支援学校視察	<ul style="list-style-type: none"> ・本校での図書館の利活用状況や読書環境等について振り返ったり、次年度取り組むべき事柄について確かめたりすることができた。

(2) 研究課題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学校図書館の活用と読書活動の充実、今後の知的障害特別支援学校における図書館機能や読書活動の充実について実践をとおして考察する。

(3) 研究の概要

1 年次の成果から、附属小学校の図書館担当と児童生徒の興味・関心や実態、授業内容を基に連絡、調整を行うことで、読書環境や教材の充実を図るようにした。また、学校研究と関連し、国語科を中心とした各教科の授業において積極的に図書館の利活用や読書活動を取り入れた。具体的な取組は以下の 4 点である。

- (1) 読書環境の充実を図ること
- (2) 国語科を中心とした各教科の授業において、図書館の利活用や読書活動を取り入れること
- (3) 児童生徒の読書実態について捉えること
- (4) アンケート調査により、特別支援学校における図書館の利活用や読書活動についての現状を捉えること

上記の 4 点について、実践をとおして考察するために、11 の授業実践を行った。また、外部講師を招いた、検討会や授業研究会等をとおして、読書環境を整えることの価値、図書館の利活用や読書活動を取り入れる際の配慮事項、実態を踏まえて教材化したり、評価したりする際の工夫などについて検討した。そして、こうした取組について、児童生徒の具体的な姿をとおして評価し、実践の意義や価値を確かめた。また、アンケート調査や先進校の視察を行い、本校の現状や実践を客観的に振り返ると共に、本校での実践研究を評価・改善する契機とした。

(4) 研究の成果

国語科を中心に多様な教科の学習で図書を活用した。それにより、児童生徒が学習への意欲を高め、写真や説明文からより詳しく場面を捉えたり、感じたことや考えたことを文字や言葉として表現しようしたりする姿、本の内容を基に思考を広げる姿などが見られ、児童生徒の学びにおいて効

果があることを確かめた。そして、授業のねらいや教科の特性に応じて、導入部において取り入れた方が有効な場合や、学習活動の展開に応じて取り入れる場面や度合いを考慮することで、児童生徒の思考を促すことを確かめた。更に、児童生徒がねらいに沿って読むことができているかという点で評価したり、児童生徒の実態に応じて選書し、教材化したりすることの重要性も明らかにできた。また、授業と関連した読書環境の充実を図ることで、児童生徒が自分から本を読む姿が増え、読んだ本を話題に友だちと話したり、何か情報を得ようとした際に、図書で調べたりする姿も見られるようになった。また、こうした実践を「学校図書館利用計画」としてまとめた。

「読書カード」の作成と活用により、児童生徒が読んでいる本の種類、冊数の確認など、情報の蓄積を行った。こうすることで、授業実践の際の選書にも生かすことができた。また、図書館を利用する回数が増えたり、保護者も読書の楽しさや効果を、児童生徒の姿や変化をとおして実感するツールにもなったりした。

アンケート調査により、特別支援学校における図書館の利活用や読書活動の実態について確かめた。図書館利活用や読書活動の有用性と具体的な実践モデルを今後も示していくことで、特別支援学校における図書館の利活用や読書活動の充実につながることを期待できると考察した。

(5) 課題と今後の方策

日常的に読書を行うようになった児童生徒の姿を確かめた一方で、読書が身近なものとなり、余暇活動の1つとして定着したりしているとは言いがたい現状も確かめた。先進校の視察においても、「実態に応じた読書」として、旅行雑誌やファッション情報誌を数多く配架し、中高生の読書を促していたことから、来年度は、実態に応じて雑誌や情報誌も図書館やブックカートに並べ、日常的な読書や余暇活動へとつながるようにする。また、マルチメディア図書も活用し、タブレット端末等で教室でも手軽にDAISY図書を見ることができるようにし、多様な実態の児童生徒に対して、読書活動が充実するようにする。

次年度も国語科を中心とした教科の学習に図書館の利活用や読書活動を取り入れていくことを継続し、作成した利用計画を見直しと修正を行いながら、本校における図書館の利活用をより確かなものにしていく。また、来年度は、公立図書館との連携を図り、図書資料のやりとりをしたり、図書館の利活用や読書活動に関する教員向けの研修会や学校向けのサービスを利用したりして、本校での実践の充実につなげる。

読書カードについて、より活用ができるように、内容や形式を見直し、改善を図る。また、こうして蓄積し捉えた実態と授業実践を関連させ、実態に応じた選書について明らかにすると共に、学習活動で使用した図書を一覧化することで、本校での図書館の利活用や読書活動の更なる充実につながる実践としていきたいと考える。